

# 支部協だより

第132号

発行所

NTT労組退職者の会  
沖縄県支部協議会  
沖縄県浦添市城間4-35-2  
TEL.098-870-7101  
FAX.098-875-7450

責任者  
瀬良垣 武安

## オール宜野湾の民意勝利で続く参議院議員・ 県議会議員選挙を勝利し、 辺野古新基地建設阻止を実現しよう！



会長 瀬良垣 武安

会員の皆様、ご家族の皆様、迎えた新年は、いかがお過ごしになりましたでしょうか。

新年のご挨拶の会報の中でも、会員の皆様ご家族の皆様へ宜野湾市長選挙でオール沖縄推薦の「シムラ恵一郎」候補のご支援と知人友人等への支援拡大の呼びかけのお願いを致しましたところですが、退職者の会として、今度の宜野湾市長選挙は是非とも勝利をし、続く夏の参議院議員選挙（沖縄選挙オール沖縄推薦の「伊波洋一」予定候補）（比例選挙にはNTT労組、情報労連組織内候補の「石橋みちひろ」

予定候補）及び県議会議員選挙の勝利へと継続していくことが最も重要と考えております。

「シムラ恵一郎」候補の政策及び公約は、基地をなくし雇用の拡大、経済の発展、活気ある国際色豊かなまちづくりへ向けて多くの提案をしております。

その基本は、二〇一三年一月にオール沖縄として確認してきました。

オスプレイ配備撤回と普天間飛行場の閉鎖撤去・県内移設反対を求めて、県議会の全会派と県内四十一全市町村長が署名押印した「建白書」が安倍首相に手渡された。このとき県内首長と政党は保革を超えた「オール沖縄」でオスプレイ配備

しつかり踏まえ、そのことを基本に、オスプレイ配備撤回、普天間基地の閉鎖・撤去、県内移設阻止の実現に向けて、辺野古新基地建設を許さず、普天間基地の五年以内の運用停止と一刻も早い閉鎖・撤去をめざして行くことを表明しております。

これまでの安倍自民・公明政権の「オール沖縄」の民意を無視した、安倍暴走政権のあまりにもひどいやり方は、市民・県民の怒りを広げるだけであります。

今度の宜野湾市長選挙で、「新基地建設反対」の宜野湾市長の民意を、「シムラ恵一郎」候補の勝利で明確に示して行きましょう。

相手候補も、安倍自民・公明連立政権が、辺野古新基地推進及び続く参議院選挙、県議選へ向けて、自民党県連、公明党県本部も含めて勝つためには手段も選ばず姑息な手段で国政選挙並みの総力戦の様相であります。是非とも「シムラ恵一郎」候補の勝利を勝ち取らねばなりません。

そのために再度のお願いになりますが、今一度会員皆様の更なるご支持拡大の取り組みをお願い致します。

## 基地の負担軽減と新基地建設

顧問 黒島 善市(80歳)

宜野湾市長選まであと十日となった。

現宜野湾市長は、辺野古の新基地建設については明言を避けながら、普天間飛行場の固定化反対、普天間飛行場で苦しんでいるのは宜野湾市民だ。他所へ持つていけ。移設先は日米両政府が決めるのでそれに従う(県内でも良い)。普天間の五年以内運用停止ができないのは、基地の負担軽減推進委員会を県が開催しないからだ。と話している。

ば出来そうなことをやらないうで、まさに話レクアッチャーだ。

辺野古での新基地建設完成までどんなに急いでも後一〇年はかかるという。政府が心の底から普天間飛行場は危険と思うならば、あと一〇年も放置していいはずはない。それをしない

基地の負担軽減とは、単純に考えると現在行われている訓練回数を毎年一割でも二割でも減らす、夜間や早朝訓練、オスプレイのヘリモードでの市街地上空を飛行しないことだ。

基地建設に投入することを断固拒否する(完成すれば半永久的に日本政府・米軍のものとして使用される)。宜野湾市長選に勝利しよう。

現実には、訓練回数は毎年増加しており、約束した訓練時間帯を無視して市街地上空を我が物顔に行っているではないか。すぐにでもやろうと思え





ただ今現役

生き生き通信

社会のなかで  
共に歩く活動を

安里 優 (65歳)

ひとりで悩んだりしていませんか？

NTTを五十五歳で退職し早十年が経ちました。NTT退職後は、連合沖縄・(公財)沖縄県労働者福祉基金協会にお世話になりました。

私は平成二十五年まで(公財)沖縄県労働者福祉基金協会で、「ひとり親世帯や要介護高齢者などを抱え、なかなか就職できない就職困難者に対し、子育て支援相談、介護支援相談及び就職活動支援」などの必要な支援を行い、就職や就労の継続を図る事業に従事しておりました。

私はこの仕事を通して、こんなにも大勢の人たちが生活にたちゆかなくなっているんだという現実に驚かされました。そして、そのことがきっかけでボランティア活動に興味を持つようになりました。



全国被害者支援ネットワーク九州・沖縄ブロック研修会の模様

現在、私は沖縄被害者支援ゆいセンターで相談・支援員をしております。私達の身の周りでは何の落ち度もないのに、いろいろな事件・事故のせいで、多くの被害者やその家族、遺族が誰からも援助の手を差しのべられることなく、一人で悩み苦しんでいるのが現状

です。ゆいセンターはこのよう

な犯罪被害者に対して精神的支援やその他の各種支援事業を行うとともに、社会全体の被害者支援意識の高揚を図り、被害者等の被害の回復及び軽減に資することを目的に、平成十六年三月に設立されました。

主な活動としては電話相談・面接相談及び裁判所・警察署等に出向く必要のある被害者に付き添う直接的支援活動を積極的に推進している民間の被害者支援団体です。

相談機関としての当センターの存在は着実に認知されてきていることを実感するとともに、きめ細やかな支援のさらなる充実が求められていることを痛感します。これからも犯罪被害者によりそったきめ細かい支援活動をしていきたいと思っています。

事務局便り

今、新しく作られようとしている「辺野古の新基地」は、四十数年前に海軍や、海兵隊で計画されたが予算不足のため、見送られた基地と同じ位置にあります。この計画では、「補修を繰り返して、2000年は使用する」となっています。



墜落現場校舎写真

閑話休題、2004年8月13日(金)午後2時15分普天間基地所属の大型輸送ヘリ・CH-53Dが大学1号館北側に接触し墜落・炎上した。搭乗乗員3名は負傷で済んだ。また、大学職員や学生にも幸いなことに死傷者はなかった。

ところが、この事故処理が異常でありました。事故現場に駆け付けた、宜野湾市の消防隊員や、宜野湾市の警官が現場に入れない。武装した海兵隊員が銃器をかざして入れないの

である。駆けつけた伊波市長も入れない状態がつけられたのである。普天間基地の内部で起きた出来事ではない。民間地域での出来事である。「アベ首相」の口を借りて大きな声で言えば、「日本の領土」内で起こった出来事です。米国内でもなく、日本の国内にも関わらずに、武力でもって、日本の国の「行政権」や「警察権」を「執行停止」にしたのである。

そのため、事故原因究明もおおざかりになりました。どれだけの「放射能成分」が飛び散ったかも「巻き散らかされた土」が基地内に回収されて「うやむや」になりました。敗戦から、59年経過して「米軍の占領状態」が、起こつ

事前投票を活用しよう!!

宜野湾市長選は、すでに告示されました。必ず投票に行き、市民の権利を行使しましょう。宜野湾市の未来を決めるのは、あなたです。

お知らせの親戚、友人・知人にも、事前投票の呼びかけを行いましょう。NTT労組退職者の会では、「シムラ」さん勝利のために組織決定して、頑張っています。

全島から、宜野湾市の親戚・友人・知人へ一声、一声をかけてください。

「会員の計報について」

謹んでご報告し、故人の冥福をお祈りします。

平田 勉 満62歳  
(2015・12・29)

久米島在

たのです。日本の政治家や国政を握る官僚も諸大臣も勿論トップの「首相」も「知らんぷり」です。

尖閣諸島内であつても、無人島であつても、中国武装船でなく漁船が漂流して燃えた。そこへ中国武装船が駆けつけて、武装した中国兵が、日本の駆けつけた海上保安庁の介入を一切はねつけたらすぐさま大騒動になりますか？ なぜ沖縄から「許されるのか」「無関心で済まされるのか」怒りがこみ上げます。

新基地ができる、今後2000年間は、「このような占領状態」が沖縄県内のどの地域でも起こり得ると懸念しています。

辺野古での新基地建設の賛成派は、米軍の占領状態を「歓迎」「当然こと」としているのですかね？

今度の宜野湾市長選挙は、宜野湾市のみ選挙ではないことは確かです。世界が注目です。